

4 基金

事業の推進、財源調達のために必要な資金を積立てて運用する基金等の状況は、次表のとおりです。

■基金内訳(一般会計+特別会計)

基金名		現在高			
1	財政調整基金	7億9,439万円			
2	市債管理基金	3億5,754万円			
3	その他特定目的基金	29億4,791万円			
主なもの	(都市施設等整備事業基金)	3億2,738万円	内	現金	36億1,164万円
	(健康管理施設整備基金)	3億1,558万円		出資金	500万円
	(赤穂ふるさとづくり基金)	1,333万円		有価証券	336万円
	合計	40億9,984万円		土地	4億7,984万円

3 市債

住みよいまちづくりを進めるために、道路や公園、下水道などの生活環境施設や、学校などの教育施設の整備を積極的に行っていますが、単年度の市税等だけでは、これらの財源をまかないきれません。

また、これらの事業効果は後年度に及ぶものであり、後年度の世代との負担を均等にするためにも、必要な財源の一部を市債として借入れ、後年度に市税等で償還(返済)しています。

■市債の状況

区分	21年度末 現在高	22年度中増減		22年度末 現在高
		市債借入額	元金償還額	
一般会計	236億1,140万円	21億7,804万円	25億9,953万円	231億8,991万円
公共下水道事業特別会計	179億1,773万円	9億3,810万円	13億4,869万円	175億714万円
農業集落排水事業特別会計	24億8,806万円	5,170万円	1億1,697万円	24億2,279万円
駐車場事業特別会計	12億205万円		1億378万円	10億9,827万円
合計	452億1,924万円	31億6,784万円	41億6,897万円	442億1,811万円

赤穂市の家計簿 ~一般会計決算を家計に例えると~

市の決算額はおよそ200億円という大きな額のため、このままでは実感がわきにくいものです。そこで、市の財政状況を年収500万円の家計に置き換えて表してみました。

【収入】

赤穂市の一般会計決算(平成22年度決算)		赤穂市の家計簿			
		収入項目	年間収入	1ヵ月の収入	
自主財源	市税・使用料手数料など	105億7,988万円	給料・ボーナス	500万円	42万円
	繰入金	4,049万円	貯金の取崩し	2万円	0万円
依存財源	国県支出金 地方交付税など	75億5,647万円	親からの援助、 子ども手当など	357万円	30万円
	市債	21億7,804万円	借金	103万円	8万円
収入合計		203億5,488万円	収入合計	962万円	80万円

【支出】

赤穂市の一般会計決算(平成22年度決算)		赤穂市の家計簿		
		支出項目	年間支出	1ヵ月の支出
人件費	43億8,871万円	生活費(食費)	208万円	17万円
扶助費	26億1,034万円	医療費、保育料など	123万円	10万円
公債費	29億6,872万円	ローンの返済	140万円	12万円
物件費等 補助費 投資及び 貸付金など	43億4,418万円	光熱水費、電話代、 消耗品、寄付金、 冠婚葬祭費、交際費など	205万円	17万円
繰出金	13億405万円	子どもへの仕送り	62万円	5万円
積立金	7億336万円	貯金	33万円	3万円
投資的経費	36億5,317万円	自宅のリフォーム、 自家用車購入など	173万円	15万円
支出合計	199億7,253万円	支出合計	944万円	79万円

★市債残高 231億8,991万円 ローン残高 1,096万円(前年度1,134万円)

5 債務負担行為の状況

債務負担行為とは、後年度において支出の義務を負う行為、例えば数年度にわたる工事を一括して契約することです。平成22年度末の状況は、次表のとおりです。

■債務負担行為の状況

事業名	債務負担行為 限度額	期間	23年度以降 支出予定額
赤穂御崎地区 国立公園 施設建設事業	15億1,344万円	平5 } 平24	1億1,490万円
温泉源掘削 事業補助	赤穂観光協会が事業資金 として金融機関より融資 を受けた額の元利償還金 の1/2	平12 } 平26	債務負担行為 限度額と同じ
電算基幹業務 再構築事業	3億8,220万円	平23 } 平28	3億8,220万円
戸籍事務電 算化事業	1億6,695万円	平23 } 平28	1億6,695万円
赤穂駅周辺整備 株式会社の施設 取得資金等に 係る損失補填	赤穂駅周辺整備株式 会社が施設取得資金等 として金融機関から融資 を受ける27億3,000万円	平16 } 平25	7億3,628万円

